

# 荒井弘高先生に感謝

白鷗大学教育学部教授

今 田 政 成

荒井弘高先生は、この春白鷗大学でのご定年退職の日を迎えられました。在職期間は、昭和52年4月から本年3月末日までの46年間となります。荒井先生との出会いは、遡ること48年前になります。音楽大学に入学した際声楽の先生が同じであったことから、3年先輩である荒井先生の伴奏者として、たくさんのことを教えていただきました。当時の先生は、肩まであるロン毛で、650ccのバイクに乗られており、大学にいつも颯爽と現れていたのを鮮明に思い出します。

46年の間、教育者としての傍、常に演奏活動も続けられ、常に学び続ける姿は、学生ならずとも我々に多くの学びを与えてくださいました。その間、授業やゼミで関係した学生達はもちろんのこと、小学生からお年寄りまでのオペラ・ハンドベル・合唱を愛好する一般市民の皆様とも多くの表現活動を続けていらっしゃいました。先生は常に「音楽に対して自分の勉強、研究を続けられなくなったら教師を辞める時だ」とおっしゃっていたのが印象的です。

特に先生が心血を注いだオペラは、授業でも生かされ「表現」や「ソルフェージュ」においても、先生独自の観点からの指導は、知識だけにとどまらない創造的なものでした。最終講義の際にも文部省唱歌の「富士山」「われは海の子」を独唱していただき、授業の指導でも演技付き歌唱を常に心がけていらっしゃいました。

白鷗大学教育科学研究所助成事業の一環で日本のうた研究会を会長として立ち上げ、その分野の第一人者である塚田佳男先生をお招きして、歌い継がれるべき日本のうたを若者たちに伝えるべく、2003年から36回に渡っ

て研究会と演奏会を開催してきました。

そして荒井先生といえば、ハンドベルなくして語れません。全国大学音楽教育学会関東研究会の際、和泉短期大学のハンドベル演奏を聴いた先生は、その音色・演奏に魅了され、音楽教育の一環として導入しハンドベル部を立ち上げました。ハンドベル部が軌道に乗った第9代チームから私も副顧問として指導を始め現在に至っています。全国でも数少ない7オクターブのハンドベルを使用し、マレットを多用する独自の演奏スタイルを確立し、世界大会では日本代表指揮者を務めるなどハンドベル界でも活躍されています。またハワイ演奏旅行やハンドベル世界大会に参加し、演奏に対してのスタンディングオベーションも忘れられない思い出であり、「その際に学生が流す嬉し涙には私自身も目頭が熱くなる思いでした」とおっしゃっていました。

あっという間の46年間でした。荒井先生には、まだまだ教えていただきたいことがございますが、演奏家としての活動は続けられるということなので、心強い限りです。今後とも引き続き、わたくしども音楽家の後進のみならず、さまざまな音楽芸術分野でのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

先生のますますのご健勝とご多幸をお祈りして、ここに心から感謝を捧げます。

荒井弘高先生、ありがとうございました。

